

開山1300年祭後の 観光は

町長

検証を終えて戦略を立てる



吉原美智恵 議員



にぎわいを待つ大山寺

【吉原】大山1300年祭も終わりに近づき、祭りが心配である。観光はすそ野の広い産業であり、町の活性化にとっても重要だが、町民の盛り上がりも今一步のままである。観光局と共に、来年に向けての戦略を立てる必要があるのではないか。また、貴重な資源としての文化財の活用は。

【町長】 来年に向けての戦略は、これまで行った事業の効果検証の結果を踏まえ考えた。

【吉原】 今、大山寺へは結構な人が来ており、魅力あるツアー開発や、Wi-Fi整備など、観光課・社会教育課・観光局が一丸となって満足度を上げるべきではないか。

【町長】 戦略はしっかりと観光課が考え、ソフト部分は観光局が担い、大山寺で泊まっていたり取り組みを強化する。

【教育長】 文化財の活用は、保存が絶対条件であり、その上で観光戦略の中での役割を共有し、可能な支援体制づくりを行う。

いづれも楽しいまちとは

町長

誰もが暮らしやすいまちである

【吉原】「大山町未来づくり10年プラン」で「楽しさ自給率の高いまちへ」という基本理念に基づき、「こどもと楽しいまちプロジェクト」の実施計画が示された。

その基盤となる考えが、「誰もが暮らしやすいまちをみんなで作る」ということだが、子育て支援も充実しているなか、大人をどのように巻き込むのか。

【町長】 本町のまちづくり方針を明確にするために計画を進めているが、子どもと一緒に生活しやすい地域を考えることは、高齢者や障がいのある人にもやさしい町をつくることにつながる。【吉原】 町の予算80万



楽しく頑張る子どもたち

円をつけ、非常勤の職員を配置するということだが、今ある事業や、自主組織で取り組みをしている内容と変わりにくく疑問だ。町民自ら湧き出た計画でないと、成果も上がらないのでは。

【町長】 人と人をつなぐ、まちづくりを主体的にできる人を増やす。